

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー



HOUSE OF THE YEAR IN ENERGY

ご案内



一般財団法人日本地域開発センター
Japan Center for Area Development Research

JCADR

INDEX

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー表彰制度

あらまし	1
誕生の経緯	1

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013

応募要領

テーマ	2
趣旨	2
評価の視点	3
審査体制	3
審査結果の発表および表彰	4
賞の種類	4
応募条件	5
応募方法	5
応募費用	6
応募期間	6
応募資料入手・送付先およびお問い合わせ先	7

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012

審査委員会	8
審査委員講評	8
審査結果	12
大賞	12
特別優秀賞	14
優秀賞	15
地域賞	16
優秀企業賞	16
表彰式	17



YEAR IN ENERGY

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー表彰制度

あらまし

省エネルギー、省CO₂は、もはや世界全体で取り組むべき課題となっており、日本の住宅を考えるうえで欠かせない重要な要素となりました。

住宅は、その規模やエネルギー消費形態において非常に多様であることから、省エネルギー対策の有効性を検討するには、住宅全体について総合的に評価することが必要となります。

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」では、建物外皮とエネルギー設備機器を一体として捉えて省エネルギー性の評価を行い、更に、販売実績、設計・施工における標準化およびコスト対策といった普及に関する面にも着目し、省エネルギー性と普及性に優れた住宅の表彰を行っています。

表彰住宅の選定は、学識経験者などで構成される審査委員会が厳正な審査を行います。

この表彰制度は、ジェントルマンシップに基づく、一般財団法人による、民間企業のための公平中立なもので、省エネルギー住宅の普及と質的な向上に大きく貢献し、高い評価を得ています。

誕生の経緯

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー表彰制度」は、「環境と暮らしにやさしい住まいとまちづくり検討委員会」(座長：伊藤 滋 早稲田大学特命教授)において、平成16年6月から同17年12月に渡って検討した成果に基づき誕生しました。

この検討委員会は、官主導ではなく、ハウスメーカー、電気機器メーカー、電力会社および学者等の専門家から成る民主導のもとで、国に先んじて提言を行ったユニークなものでした。

省エネルギー、CO₂排出量削減という社会的な要請と生活者としての居住者の視点の双方の観点から、住宅の省エネルギーを一層推進することが極めて重要であるとの認識のもとに、建物躯体とエネルギー設備機器をセットとして捉え、トータルとしての省エネルギー性能を向上させていく取り組み策を提言しました。

この提言を推進する効果的な手法として、平成19年に「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック表彰制度」が創設され、平成24年からは、エネルギー設備機器の対象を拡げた「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー表彰制度」として、継続して実施しています。



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013 応募要領

テーマ

外皮と設備をセットで考えた、トータルで省エネルギーな住宅

趣 旨

省エネルギー・省CO₂は、もはや世界全体で取り組むべき課題となっており、日本の住宅を考える上でも欠かせない重要な要素となりました。住宅はその規模やエネルギー消費形態において非常に多様であることから、省エネルギー対策の有効性を検討するには、住宅全体について総合的に評価することが必要となります。

この観点から、平成25年10月1日に「住宅の省エネルギー基準」が「一次エネルギー消費量」を指標とした建物全体の省エネルギー性能を評価する基準に改正されました。

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」では、平成19年の創設当初からこの考え方を導入し、建物外皮と設備を一体とした省エネルギー性の評価を行い、更に、販売実績、設計・施工における標準化およびコスト対策といった普及に関する面についても着目し、省エネルギー性と普及性に優れた住宅の表彰を行っています。

表彰住宅の選定にあたっては、学識経験者などで構成される審査委員会が厳正な審査を行います。ジェントルマンシップに基づく一般財団法人による民間企業のための公平・中立な表彰制度である「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」が、日本の省エネルギー住宅の普及と質的な向上に資することを期待しています。



YEAR IN ENERGY

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013

評価の視点

次の3つの視点から、審査委員会で審議を行い、トータルで省エネルギーな優れた住宅を選定し、表彰します。

視点1：外皮・設備の省エネルギー性能値

住宅の躯体・開口部・設備機器の性能を、「住宅の省エネルギー基準※（平成25年10月1日施行）」により数値化して評価します。

※ エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準（平成25年経済産業省・国土交通省告示第1号）

（注）評価方法が、従来の「住宅事業主基準」から「住宅の省エネルギー基準」に変更となりましたのでご注意ください。

（注）評価に用いる住宅モデル（省エネルギー基準の策定検討に用いられた戸建住宅モデル）を設定していますので、この設定に基づき、ご記入下さい。

なお、住宅モデルの詳細は、以下のWebサイトでご確認下さい。

一般財団法人日本地域開発センター
<http://www.jcadr.or.jp/>

視点2：多様な省エネルギー手法の導入

視点1での定量的な評価が難しい省エネルギー技術・手法などを総合的に評価します。

視点3：省エネルギー住宅の普及への取り組み

供給戸数、供給価格、情報発信等を考慮し、省エネルギー住宅普及への各種取り組みを総合的に評価します。

評点の割合は、視点1が概ね50%～60%を占めるものとし、視点2、視点3についても加味した上で、審査委員会で総合的に評価するものとします。

審査体制

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー審査委員会

最高顧問：伊藤 滋	早稲田大学特命教授
委員長：坂本 雄三	独立行政法人建築研究所理事長
委員：秋元 孝之	芝浦工業大学教授
委員：寺尾 信子	株式会社寺尾三上建築事務所代表取締役



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013

審査結果の発表および表彰

審査により、「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013」(大賞、特別優秀賞、優秀賞、地域賞および優秀企業賞)を選定し、表彰します(平成26年3月中旬を予定)。入賞者には表彰状および記念品を授与し、ロゴタイトル使用权を寄贈します。

審査結果は、入賞者へ直接ご連絡するとともに、一般財団法人日本地域開発センターホームページおよび月刊『地域開発』誌上にて発表します。

《留意点》

各賞の授与は、応募された「住宅シリーズ」のうち、申請書に記された「地域区分、断熱性能および設備仕様」に対して行います。そのため、受賞後のPR活動については、受賞対象となった「地域区分、断熱性能および主な設備仕様」を併記する形でお願いします。

賞の種類

■大賞

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」として最も優れていると認められるシリーズに贈られる賞

■特別優秀賞

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」として大賞に次ぎ特に優れていると認められるシリーズに贈られる賞

■優秀賞

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」として優れていると認められるシリーズに贈られる賞

■地域賞

優秀賞以上受賞者のうち、地域に根ざした活動において創意工夫等が認められるシリーズに贈られる賞

■優秀企業賞

3年以上連続して、上記いずれかの賞を受賞している企業に贈られる賞



YEAR IN ENERGY

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013

応募条件

- ・2013年1月1日～ 2013年12月31日に竣工実績(およびその予定)を持つ「住宅シリーズ」等が対象です(省エネ地域区分1地域～8地域の全地域対象)。
- ・戸建部門のみの募集となります。
- ・過去に申請された住宅シリーズ(各賞を受賞されたシリーズを含む)も応募可能です。ただし、過去に「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック 大賞」および「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012 大賞」を受賞した住宅シリーズについては、省エネルギー性に特段の向上が見られない場合には再度大賞を受賞することはできません。なお、大賞以外の受賞については、この制約はありません。

《留意点》

- (1)「住宅シリーズ」は、各社で既に設定されている商品シリーズ名でも、応募に当たり新たに設定・区分したシリーズ名等でも構いません。
- (2)本制度は、各住宅シリーズの「代表的な地域区分」における「標準的※な仕様」での省エネ性能等を評価・表彰することを基本とします。住宅シリーズの中で、お客様が設備の種類・仕様(特に断熱性能、給湯・暖冷房設備の熱源・機種等、太陽光発電の容量等)を任意で選択可能なものについては、標準的な仕様を特定してご応募下さい。
- (3)応募する住宅シリーズについて、「代表的な地域」や「標準的な仕様」を1つに特定できない場合は、複数応募することも可能です。その際、各応募内容について省エネルギー性能や普及状況などを考慮しながら、「最も評価の高い応募案件」に対して表彰します。

※ 「標準的」とは、「当該住宅シリーズの説明資料等に記載されている」「供給戸数が最も多い」あるいは「商品コンセプトに最も合致する」などを想定しています。



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013**応募方法****《応募申請方法および提出資料》**

応募資料は、次ページの「応募資料入手・送付先およびお問い合わせ先」に記載するWebサイトからダウンロードし、必要事項を記載のうえ事務局宛に郵送して下さい。

《留意点》

- (1)必ず事前に応募費用の振込を行ってから応募申請資料を送付して下さい。
- (2)応募費用は、当方が応募を受理できないと判断する場合を除き、返金致しませんのであらかじめご了承下さい。
- (3)原則として、応募者は設計した組織、個人(設計者等を含む)とします。
- (4)入賞した住宅シリーズは、主催者の広報活動、審査委員の活動の中で紹介する場合があります。
- (5)応募資料(応募台紙に貼り付けた写真、添付の図面等含む)は返却致しません。
- (6)随時、追加資料の提出をお願いする場合があります。
- (7)入賞した住宅シリーズについて、画像データ(高解像度)の提出をお願いしますので、著作権と使用許可を得た上で、データをご提供下さい。
- (8)入賞した住宅シリーズの著作権は応募者に帰属しますが、その発表および雑誌等への掲載に関する優先的権利は主催者が保有するものとします。

応募費用

5万円/住宅シリーズ・地域区分・仕様 ※¹

所定の金額を下記口座宛にお振り込み下さい。

振込金受領証(写し) ※²は応募書類(応募申込書)に添付して下さい。

振込先口座 三菱東京UFJ銀行 虎ノ門支店 普通口座 2045720 名称：ザイ)ニホンチイキカイハツセンター
--

※¹ 費用は応募される住宅シリーズと地域および仕様ごとに必要となります(例：住宅シリーズ「A」で5と6地域に応募→10万円、住宅シリーズ「B」のα仕様とβ仕様で3地域に応募→10万円)

※² 振込金受領証とは、金融機関発行の振込金受領書・振込受付書、ATM利用明細などのことです。インターネットバンキングの場合は「振込日、振込人名義、振込金融機関名、金額」が分かる書類を貼付して下さい。

応募期間

2013年10月1日(火)～2013年10月31日(木)(必着)



YEAR IN ENERGY

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013

応募資料入手・送付先およびお問い合わせ先

■応募資料入手先

<http://www.jcadr.or.jp/>

■応募資料送付先

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町3-21-5 ヒガシカンダビル307号
ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー事務局
(一般財団法人 日本地域開発センター別室)

■お問い合わせ先

E-mail info@house-of-the-year.com

注)お問い合わせは必ずEメールでお願いします。

※「住宅の省エネルギー基準」自体の問い合わせについては、
JSBC(一般社団法人日本サステナブル建築協会)の「省エネサポートセンター
(<http://www.jsbc.or.jp/project/support/index.html>)」等にお問い合わせ下さい。

対面による問い合わせ窓口の開設

今回、評価の[視点1]について、外皮・設備の省エネルギー性能値の算定を「住宅の省エネルギー基準(平成25年10月1日施行)」に変更したことに伴い、日時限定で対面による問い合わせ窓口を開設します。(事前予約制)

開設日: 2013年10月18日(金) 14:00 ~ 17:00
2013年10月25日(金) 14:00 ~ 17:00

場 所: 東京都港区虎ノ門1-11-7 第二文成ビル
一般財団法人日本地域開発センター 内

- ・ 事前予約制とさせていただきますので、希望日時、質問について、事前に「お問い合わせ」に記載されたメールアドレスにご連絡をお願い致します。
- ・ 質問内容は、[視点1]に限定させていただきます。

注)対面による本窓口の利用は、審査結果に一切影響を及ぼしません。



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012 審査委員会

委員長	伊藤 滋	早稲田大学特命教授
副委員長	坂本 雄三	独立行政法人建築研究所理事長
委員	秋元 孝之	芝浦工業大学教授
委員	寺尾 信子	株式会社寺尾三上建築事務所代表取締役

審査委員講評

委員長

早稲田大学特命教授
伊藤 滋



「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012」において、各賞を受賞された皆様におかれましては、心よりお慶び申し上げます。

本表彰制度は、建物躯体と設備機能を一体として捉え、トータルとしての省エネルギー性の高い優れた住宅の普及を目的として、国にさきがけ、民間主導で実施してきたユニークな制度です。

今回は、東日本大震災の影響で一時中断した後の再開となりましたが、多数の優秀な作品のご応募をいただき安心しました。

今後とも、いっそう充実させて継続実施していく所存ですので、奮ってご応募下さい。

審査委員講評

副委員長

独立行政法人建築研究所理事長
坂本雄三



震災の影響で中断せざるをえなかったハウス・オブ・ザ・イヤーが再開されました。今回から、名称が多少変更されました(「イン・エレクトリック」から「イン・エナジー」に変わった)が、イベントとしての趣旨や評価の基本には変更はありません。「優れた省エネルギー性能」を有する住宅を多く建てた住宅会社やビルダーを表彰しようというイベントです。「優れた省エネルギー性能」を表す指標としては、1次エネルギー消費量と熱損失係数が用いられ、これが評価における最大の視点となっています。また、全般的な省エネへの取り組みを見る視点や応募者が応募した省エネ住宅の普及に関する視点も評価項目として採用されています。こうした評価の観点は、国の省エネ政策の方向と合致するものであり、他に類似のものが存在しないユニークなイベントとなっています。

さて、今回(2012年度)の結果ですが、一条工務店の「i-cube」が大賞を受賞しました。一条工務店は、2007年度の記念すべき第一回において、「夢の家」で大賞を受賞しているので、二度目の大賞受賞となりました。審査側としては、できるだけ多くの応募者に大賞を受賞してほしいと夢想していますが、現実には極めて「冷静」です。

「i-cube」はすべての評価項目において高得点を獲得しており、完璧に近い中身になっています。もちろん、特別優秀賞や優秀賞を受賞したものの中には、個々の評価項目において「i-cube」を上回るものが散見されますが、全項目にわたって高得点を獲得したものは「i-cube」以外にはありませんでした。そういう意味で「i-cube」は全くスキがなかったといえます。しかし、上述のように、項目を限定すれば、「i-cube」と同等かそれ以上のものもあるわけですから、今後はこのような「種目別の王者」が「不得意種目」においても研鑽を積み、大賞を受賞するようになってほしいと願っています。

審査委員講評

委員

芝浦工業大学教授
秋元孝之



地球温暖化対策が人類共通の喫緊の課題とされる中、省エネルギー及びCO₂排出の削減が最も重要な課題の一つとなっています。近年、世界各国において、建築分野のCO₂削減の方策のひとつとして、ゼロエネルギー建築(ZEB)、ゼロエネルギー住宅(ZEH)、等が提唱され、いくつもの活動が行われつつあります。日本政府は「省エネ法」を強化し、工業用、運輸用などとともに、ビルや住宅の省エネルギー化の基準を定め、省エネルギー化の目標の達成を目指してきています。2012年には13年ぶりに省エネ基準が見直され、住宅と建築物の省エネ基準について、1次エネルギー消費量を指標として、同一の考え方により、断熱性能に加えて、設備性能や再生可能エネルギーの利用も含め総合的に評価できる基準に一本化されることになりました。

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーは、この考えに先んじて、建物外皮と設備を一本化して省エネルギー評価とともに、その実効性すなわち標準化やコスト対策による住宅普及への貢献度合いを審査基準のなかに盛り込んでいる大変有意義な企画です。今回も応募された住宅の地域は日本全国に渡り、東日本大震災の被災地からのものも見られました。大賞を受賞した株式会社一条工務店のi-cubeをはじめとして、特別優秀賞、優秀賞、地域賞、優秀企業賞の受賞住宅は、どれも省エネルギーによる環境負荷削減とともに快適で健康なすまいの実現を目指した優れた取り組みです。

今後もこの企画を通じて、より実効性の高い省エネ住宅の普及展開が実現することを大いに期待しています。

審査委員講評

委員

株式会社寺尾三上建築事務所 代表取締役
寺尾信子



受賞者の皆様には心からお祝いを申し上げます。審査委員をお引き受けして、私自身が勉強する機会を頂き、関係各位に感謝しております。本賞の審査の初経験者として、いくつか感動した点を挙げさせていただきます。(1)賞の趣旨が明快；「優れた省エネルギー性能」を有する住宅を多く建てた住宅会社やビルダーを表彰。(2)評価の手法が明快；「優れた省エネルギー性能」を表す指標として、取組み易い「1次エネルギー消費賞」「熱損失係数」を採用。(3)審査手順がきめ細かく公正；省エネへの取組を見る視点や省エネ住宅の普及に関する視点も評価項目として採用。適確な採点方式により、公正な評価結果を導いている。(4)分析に最大限の時間を充当；締切日以後、綿密な分析が実施され、最終審査委員会までに十分な準備がなされている。……大きくは以上の4点です。

公益社団法人 日本建築家協会において、JIA環境建築賞の運営側メンバーを担当して10年となります。住宅建築部門と一般建築部門とに分かれ、ひとつの建築作品に与えられる賞と本賞は全く対照的であることを感じました。社会的影響力としている点では、建築個数の多さも評価点となっている本賞は圧倒的なパワーを持っています。国の施策の推進に絶大な貢献をしていることは間違いありません。

新鮮な気持ちで本賞に感動する一方、今後本賞に大きく期待することがあります。全ての評価項目において高得点を有しているモデルが、全国津々浦々同じ姿で存在することに、何からの疑問を持ち、さらなる上質の住宅開発を目指して頂きたいと思います。

南北に3000kmの長さ、日本海側と太平洋側の異なる気候帯、同じ日に豪雪と真夏が存在しているような、変化に富んだ日本です。地域性を取り込んだ「優れた省エネルギー性能の住宅」を実現することは高度な課題となりますが、地方色豊かな美しいまちなみを維持するためにも、この難題に取り組んで頂くことを願ってやみません。

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012

AWARD

審査結果

大賞	1件
特別優秀賞	11件
優秀賞	28件
地域賞	5件
優秀企業賞	19件

■大賞



株式会社一条工務店

静岡県浜松市西区大久保町1227-6

i-cube II

i-cube シリーズについて

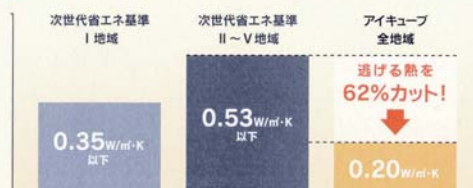
断熱材には、一般的なグラスウール(10K)の1.5倍の断熱性を発揮する「EPS」*を採用。

この「EPS」を構造材の外側(50mm)と内側(140mm)にダブルに重ねた「外内ダブル断熱工法」は、一般的な外断熱工法(外張り断熱)や内断熱工法(充填断熱)をはるかに上回る断熱性能を誇ります。

■外内ダブル断熱壁パネル

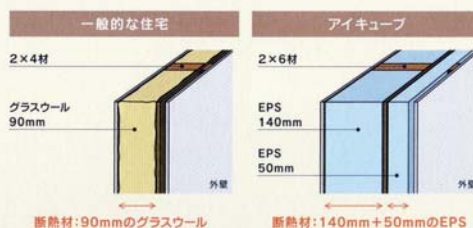


■比較しよう!「壁の断熱性能(熱貫流率)」



*次世代省エネルギー基準値は、国土交通省告示より引用。
*アイキューブの熱貫流率は標準設計断面(熱橋含む)による弊社計算値。

■比較しよう!「一般的な住宅とアイキューブの断熱材」



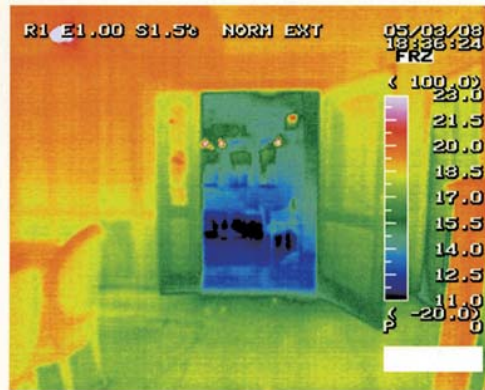
*EPS=ビーズ法ポリスチレンフォーム(Expanded Poly-styrene)

断熱性能が高いということは、省エネ性能も高いということです。

アイキューブの「Q値」は、次世代省エネルギー基準より遥かに低い、 $0.75\text{W/m}^2\cdot\text{K}$ 。

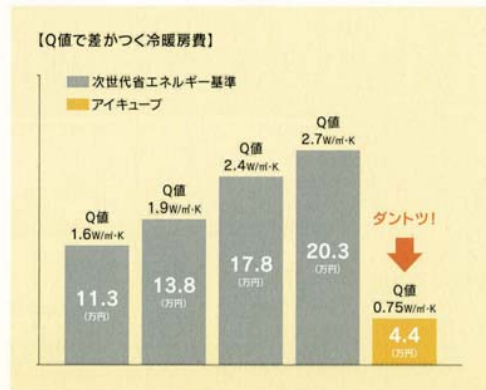
その省エネ性能は業界でもダントツです。

■ Q値が高いと居室間に温度差が出てしまいます



一般住宅のリビングと玄関。この居室間の温度差が冷暖房の効率を悪くし光熱費を高くする原因。Q値の低いアイキューブは、居室間の温度差もほとんどなく、効率良く冷暖房ができ経済的。

■ ダントツに低いから、超経済的



Q値の違いによる年間の冷暖房費比較。Q値が低い家は熱の出入りが少なく、冷暖房の熱を無駄に逃がさない省エネ住宅。つまり冷暖房費も安く、お財布にも超やさしい家なのです。

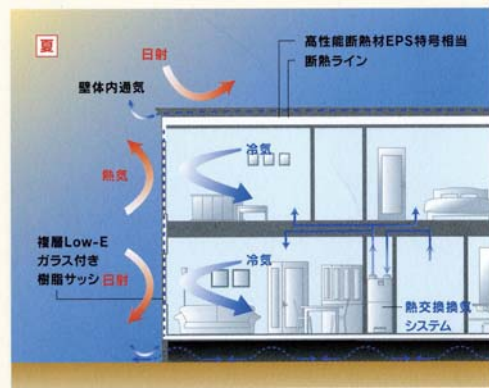
【冷暖房の運転条件・算出方法】弊社モデルプラン(延床面積:45.31坪)／建築地:東京の場合／冷暖房期:5月5日～10月23日／冷暖房設定:全居室(LDK、和室、主寝室、洋室、洋室2)、エアコン(24時間設定)、室温27℃、湿度50％／運転期間:11月2日～4月22日／運転設定:全館(収納を除く)、床暖房(24時間設定)、室温22℃／電気料金:東京電力「電化上手」の場合での熱負荷計算ソフトSMASHIによる試算。

保温効果抜群だから最小限のエネルギーで最高の住み心地を実現。

超断熱構造は、冬は暖めた暖房の熱を外に逃がさず、夏は外からの熱の侵入を防ぎます。

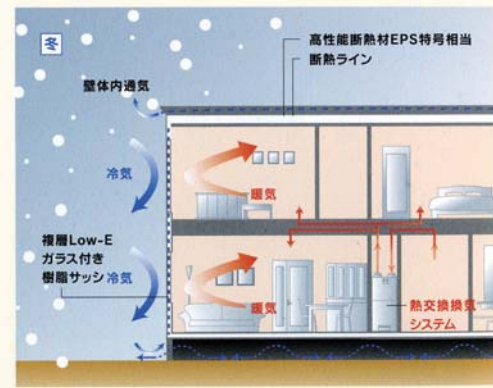
冷暖房費も低く抑えられて経済的です。

■ 夏は太陽光や紫外線をカットしてくれます



暑い夏、超断熱構造が冷房で冷やした室内の空気を外に逃がしません。また、窓からの熱の侵入を防ぐ樹脂サッシ、冷気を85％回収する熱交換換気システムが室内の温度を快適に保ちます。

■ 冬は室内の暖めた空気を外に逃がしません



もちろん、冬にも超断熱構造はその効果を発揮。暖房で暖めた熱を外に逃がしません。加えて、樹脂サッシや熱交換換気がしっかりと室内の暖めた空気を外に逃がさないようにしてくれます。

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012 AWARD

■特別優秀賞

(五十音順)



有限会社岩手ハウスサービス

FOR A省エネ住宅 II

株式会社島野工務店

「凜」zero-1 IVa

鈴木環境建設株式会社

Bespoke Eko 1 III

株式会社セイダイ

セイダイ・ハウジング・システム IVb

大鎮キムラ建設株式会社

エネーラ+ (プラス) II

パナホーム株式会社

カサート・テラ IVa

株式会社松下孝建設

粹(すい)シリーズ ゼロエネハウス ハイブリッド・エコハートQ21 V

三井ホーム株式会社

green's II IVa

三菱地所ホーム株式会社

スマートエアロテック IVa

山佐産業株式会社

かごしまの地域型省CO₂エコハウス V

ヤマト住建株式会社

エネージュ SSE IVb

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012

AWARD

■優秀賞

(五十音順)



アイ・ホーム株式会社

マッハシステム快風の家 V

株式会社タックホーム

スタイルキューブ II

アサヒアレックスホールディングス株式会社

ハートメイドハウスAA仕様 IVa

株式会社田中組

せとうち ゼロエネハウス IVb

株式会社イシカワ

ヒューマン・エネ・ハウス IVa

東京・多摩スーパーウォール会

毎日エコくらすの家 IVb

株式会社イシンホールディングス イシンホーム住宅研究会

HEIG・発電MAX住宅 V

トヨタホーム株式会社

シンセ・フィーラス IVb

株式会社栄建

「つぐみ」 IVb

株式会社福地建装

ファースの家 II

株式会社感動ハウス

ネクストジェネレーション III

株式会社ブレースホーム

ブレースホーム NEZ II IVb

近代ホーム株式会社

HB-ZERO-X 200年住宅 IVb

株式会社益田建設

イデアホーム CoCoLo IVb

健康住宅株式会社

あんみんⅡs IVb

株式会社益田建設

イデアホームイデアポットプレミアム IVb

コンセプトハウス株式会社

外断熱住宅ネクストECO IVa

株式会社松美造園建設工業

3スマート+0エネ III

省エネルギー住宅推進協議会四国支部

四国採暖採涼設計の家 IVb

横浜スーパーウォール会アソビエクラブ

アソヴィエ IVb

株式会社新昭和

クレバリーホーム「Sunbless(サンブレス)」 IVa

株式会社LIXIL

SMART SUPER WALL パッケージ(軸組工法) V

株式会社新昭和

ウイザースホーム「sola∞ie(ソライエ)」 IVa

株式会社LIXIL

SMART SUPER WALL パッケージ(枠組壁工法) IVb

創建ホームズ株式会社

心地家(ココチエ) IVb

株式会社LIXIL住宅研究所 アイフルホームカンパニー

セシボ IVa

株式会社大工産

樹心(きごころ) II IVb

株式会社LIXIL住宅研究所 フィアスホームカンパニー

arietta(アリエッタ) III

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012 AWARD

■地域賞

(五十音順)



健康住宅株式会社

福岡市城南区別府5丁目25-2

あんみんⅡs IVb

省エネルギー住宅推進協議会 四国支部

香川県高松市牟礼町牟礼2109-3

四国採暖採涼設計の家 IVb

株式会社大工産

兵庫県加古川市平岡町一色西1丁目278-1

樹心(きごころ)Ⅱ IVb

株式会社タックホーム

岩手県盛岡市津志田西1-17-33

スタイルキューブ Ⅱ

株式会社プレースホーム

佐賀県神埼市神埼町枝ヶ里331-1

プレースホーム NEZ Ⅱ IVb

■優秀企業賞

(五十音順)



アイ・ホーム株式会社

株式会社イシカワ

株式会社イシンホールディングスイシンホーム住宅研究会

株式会社栄建

株式会社感動ハウス

近代ホーム株式会社

コンセプトハウス株式会社

株式会社島野工務店

株式会社新昭和

バナホーム株式会社

株式会社福地建装

株式会社松下孝建設

株式会社松美造園建設工業

三井ホーム株式会社

山佐産業株式会社

ヤマト住建株式会社

株式会社LIXIL

株式会社LIXIL住宅研究所アイフルホームカンパニー

株式会社LIXIL住宅研究所フィアスホームカンパニー

地域の区分	都道府県名
I a, I b	北海道
Ⅱ	青森県、岩手県、秋田県
Ⅲ	宮城県、山形県、福島県、栃木県、新潟県、長野県
IVa, IVb	茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県
V	宮崎県、鹿児島県
VI	沖縄県

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012

AWARD

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2012 表彰式

表彰式は、平成25年4月5日、東海大学交友会館「三保の間」(東京・霞が関)において行われました。
審査にあたった委員会からは、伊藤滋先生、坂本雄三先生はじめ諸先生方が臨席され、全体講評などのコメントを述べられました。その後、各賞受賞企業の代表の方へ賞状が授与され、記念品およびロゴタイトル使用权が贈呈されました。



■伊藤委員長の挨拶



■坂本副委員長の挨拶



■寺尾委員の挨拶



■会場の様子



■表彰の様子



■会場の様子



■記念撮影



■記念撮影

■お問い合わせ

一般財団法人日本地域開発センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-7 第二文成ビル
TEL03-3501-6856 FAX03-3501-6855